

金剛寶戒寺便

<https://www.houkaiji.jp>

令和六年四月一日発行 第二二二号

檀信徒の皆様、こんにちは。境内の草木も芽生えてきました。アジサイの新芽が魔女のマニキュアのように思えてしまうのは私だけでしょうか。

三月二十九日午後、総代様はじめ佐伯建設の関係者が列席のもと、法要会館並びに庫裡の引き渡し式が無事に終わりましたことをご報告いたします。

今回の事業において、全てを苦としてとらえないことを目標にしていたのですが、最後の数か月は少し荷が重く感じました。納骨堂の建立をした時は納期がずれ込み、施工が進まなかったのを記憶していますが、今回は最終的な決定事項や変更に迫られた感じが致します。しかしながら全体としては大変恵まれた環境で取り組むことが出来ました事に改めて感謝している次第です。本当に有難うございます。そして、これが完結ではなく、むしろこれからが本番だと心得ています。今後は檀家様がどれだけ快く、ご法事や葬儀を行うことが出来るかに重点を置き、取り組んでいきたいと思っています。やっけていく中で気付くことも多々ある事と思いますし、利用することでも譲り合いの精神が大切になってくることもあると思います。これからどうぞご協力、ご支援をお願い致します。そしてお気づきの

点がございましたら遠慮なくご指摘くださいますようお願い申し上げます。

三月九日には齋藤智弘僧正による巡廻布教が行われました。本山布教師の資格を持った僧侶は数多くいらっしゃるのですが、齋藤師は二度目の来寺となりました。

仏教においては、創造主となるような絶対的な神の存在を説きません。世の中は原因と縁によって結果が生じる「因縁生起」を基本理念としています。けれども日常を過ごしていると何か特別な働きや、大いなる存在が居るのではないだろうかと思ってしまうほどに不思議な現象や偶然に遭遇することがあります。きつと皆さんにもその様な経験があるのではないのでしょうか。

今回の巡廻布教は「お大師様と共に」との演題でしたが、その主役は布教師さまの祖母に当たる先々代（初代）の住職のお話でした。

時代は大正から昭和におけるまだまだ日本が貧しい時のお話です。イメージするに朝の連続ドラマ小説「おしん」の頃だと思えます。先々代住職の「美代ちゃん」は「七人兄弟の長女として大正六年に生まれました。幼少期に親が知り合いに騙され、生活苦となり、小学校四年生から三年間、口減らしの為に、母親の実家へと子守奉公へ出されたそうです。浄土真宗の信仰が厚い福井県で厳格な祖母に育てられた美代ちゃんは、この時期に信仰心を植え付けられました。

二十歳の時に親の反対を押し切って結婚をするものの二度の離婚を経験し、生活はどん底。授かった二人の子供と親子心中を凶ったほどですが観音さまの声に引き止められ、死ぬことは出来ませんでした。

その後も生活難は続いた上に、結核まで患った祖母様は、そこから不思議な夢の中でお大師様に救われて命拾いをし、霊験豊かな人生を歩みだします。

浄土真宗の信仰に厚かった祖母様が初めて高野山に上がった折には、阿弥陀様、親鸞さまと縁深い西禅院に導かれ、春日大社では明神様より「三方に仏を奉納する」とのご神託を授かり西禅院、善光寺、大阪国分寺に仏様を奉納し、その後自坊を建立します。

その法力から多くの信者様から慕われた祖母様が晩年に悟ったことは、たらいの中の水は相手に向けてこそ自分の元へ返ってくるが如く、仏の仕事とは人助けをしてこそ自分の願いが成就する。との「自利利他」菩薩行だったそうです。このようは心持ちや状況になるのに四十年かかったとのお話に、嘘やいつわりが無いことを妙に実感いたしました。

四月二十九日「お接待」 ● 中止

五月十五日「旧お花祭り」 ● 中止

五月八日（水曜日）十四時より

金剛宝戒寺 法要会館において「法話の会」

お披露目会のお越しをお待ちしております。